

# 4/ 28 (火)

## 祭司のとりなし

出エジプト記二八章

この二つの石をエフォドの両方の肩ひもの上に付け、イスラエルの子らのための記念の石とする。アロンは主の前で、彼らの名を両肩に記念として担う。(12)

神はモーセの兄アロンとその子たちを祭司とするように命じられました。祭司は、神と人との間に立って仲を取り持つ働きをする人でした。特に大祭司は民全体の代表として神の前に出て、人々の罪のために贖いの供え物をささげ、とりなしの祈りをする大切な役目が与えられました。祭司はエフォドという特別な衣装を身に着け、イスラエル十二部族をその肩に担うようにして神の前に出ました。そして今、永遠の大祭司キリストは、神のみ前において私たちのために執り成しておられます。「ご自分を通して神に近づく人々を、完全に救うことができなくなります。この方は常に生きていて、彼らのために執り成しておられるからです」(ヘブル七25)。救い主イエスが今も大祭司として神の右にあり、私たちのために常に執り成してくださるとは、なんと有り難いことでしょう。